

第1回リモートメンテナンス実証検討会 議事要旨

日時：令和7年11月26日（水）10：00～12：00

出席委員：小林亘委員長、泉朋子委員、藤井威生委員、山内忍委員（オンライン）、
與那覇朝誉委員（オンライン）、赤嶺清治委員（オンライン）、吉本紀一委員、
伊藤太一委員、井戸祥文委員、澤純平委員（オンライン）、小島大臣官房審議官、
蘆屋秀幸委員

【議事】

- (1) 背景・目的、本検討会の論点
- (2) 実験概要、今後の進め方

【委員からの主な意見】

1. ガイドラインの範囲・整備
 - ・初年度は現状の設備・現行基準を前提とした最低限の基準整備とし、将来的に設備改修や点検基準の見直しも含めて段階的に整備すべき。
 - ・リモートメンテナンスを想定した設備側の改修も含めて、ガイドラインを検討することが重要。
2. 現場運用・点検
 - ・リモート化による現地訪問の頻度低下は、草木繁茂など周辺環境の悪化や設備位置の把握が難しくなる可能性があり、最低限の巡視は維持すべき。
 - ・点検員は現場で、におい、触感、音など定性的な点検も行っており、リモート化だけでは補えない部分もある。
 - ・現地点検や監視作業には多くの工数がかかっており、AI活用やリモート化により作業負荷を軽減できる。
3. データ活用
 - ・音データの取得・解析により機器異常を判断でき、将来的には映像との統合活用も検討すべき。
 - ・映像・センサー・AIを組み合わせ、どの作業を人が行い、どの作業をAI・ロボットが代替できるかを整理する必要がある。
 - ・対象設備で発生頻度が高い障害とその発見方法を理解した上で、リモートメンテナンスで必要なデータを適切に取得することが重要。
 - ・現場映像活用の事例として、動画・映像による機器状況把握が有効。映像処理と数値データの組み合わせが望ましい。

4. セキュリティ・制度面

- ・リモートメンテナンス機器にインターネットやクラウドを利用する場合は、導入前に十分なセキュリティ確認が必要。
- ・法定点検・保守点検に関しては、関係官庁が点検・保守方針を定めているため、遠隔点検の可否等確認が必要。

5. 故障予兆

- ・点検拠点が多いため、故障予兆把握は点検負担軽減につながる。
- ・点検や監視の作業レベルは作業員の経験差によってばらつきが生じているが、機械化されればレベルが統一され、設備の運用が安定する。
- ・故障予兆判定では、設置場所や設置機器ごとに基準値が異なり、精度保証に必要なデータ数の確保が課題。

6. 今後の進め方

- ・令和7年11月から実証実験開始
- ・令和8年2月に第2回リモートメンテナンス実証検討会を開催予定
- ・実証結果から技術要件案を整理